

C H A L L E N G I N G S P I R I T

本田 誕生紀念  
宗一郎

DREAMS FOREVER



## 本田さちさんを囲んで



埼玉公演



別府公演



天竜公演

## 本田宗一郎生誕記念埼玉公演に感謝して

### 本田 さち



この度、亡き夫本田宗一郎の生誕記念にあたり、宗一郎がものづくり・ひとづくりに夢を追った地ともいべき埼玉において記念事業が行なわれましたことは大変嬉しく心から厚くお礼申し上げます。

本田宗一郎は、明治39年11月17日に旧磐田郡光明村に生まれ天竜の美しい豊かな自然の恵みと両親や地域の皆様方の温かい人情に育まれ、自分の好きなものづくりの道を目指して天竜から東京へ巣立ちました。その後も幾多の困難に遭遇しましたが常に大きな夢を抱いて、その実現を喜びとして生きてきました。その間、陰に陽にご指導・ご鞭撻を賜りました多くの方々のお陰で、ホンダという世界企業の礎となることができました。

ミュージカル「本田宗一郎物語」も、好奇心の強かった宗一郎の少年時代の数あるエピソードを基に、両親と離れ東京へ旅立つところまでをミュージカル化されています。そのいくつかの場面で、常に夢を抱くことの素晴らしさ、故郷や家族のありがたさ、ものづくりの大切さを感じることができます。

今回の埼玉公演の開催につきましては、平成18年11月天竜で開催された本田宗一郎生誕100年記念事業の際、天竜の子どもたちによって公演されたミュージカル「本田宗一郎物語」を観て感激し、昨年、大分県の皆さんにも見ていただきたいと関係者のみなさまにご無理を申し上げ、別府公演を実現することができました。

その後、別府公演をご覧になった皆様や出演してくれた子どもたちから、感動・感謝のお手紙をたくさんいただき、ホンダ学園の学生さんや埼玉に育つ将来を担う多くの皆さんなどもっと多くの人に、是非ご覧いただきたいとの思いから、関係者のみなさまに再度お願いし、埼玉公演を実現することができました。

埼玉公演では、別府公演に出演した子どもたちにも再会でき大変嬉しく思いました。一年ぶりに見る子どもたちは演技力・表現力・歌唱力なども飛躍的に成長したと感じられました。舞台では心一つにして頑張ったことが、公演を観てくれた皆様にもとても輝いて見え心に響いたと思います。これからも、子どもたちの心の中に本田宗一郎が生き続け、それぞれの夢の実現に向かう子どもたちの心にエネルギー与えることができれば幸いです。

最後に、今回埼玉公演でご尽力をいただきました学校法人ホンダ学園、本田宗一郎顕彰会、「龍水の都」文化体験プログラム実行委員会、運営スタッフの皆様にも重ねて感謝を申し上げます。

末筆乍ら、この記をおかりしてすべての皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



## 埼玉公演

平成20年9月7日(日) 10:30~  
会場：川越市市民会館  
埼玉県川越市郭町1-18-7



## 別府公演

平成19年7月29日(日) 13:00~  
会場：B-con Plaza「フィルハーモニーホール」  
大分県別府市山の手 12-1



## 天竜公演

平成18年11月12日(日) 13:00~  
会場：浜松市天竜壬生ホール  
静岡県浜松市天竜区二俣町二俣20-2



# C O N T E N T S

ごあいさつ .....	4
本田宗一郎生誕記念	
埼玉公演 公演プログラム .....	7
コンテンポラリーダンス .....	8
ミュージカル .....	9
学校法人 ホンダ学園視察 .....	10
埼玉公演写真 .....	12
出演者寄せ書き .....	19
感想文・手紙 .....	24
本田宗一郎生誕100年記念	
別府公演 公演プログラム .....	31
ロック太鼓 .....	32
コンテンポラリーダンス .....	33
ミュージカル .....	34
記念式典 第1部・第2部 .....	35
読書感想文・絵画優秀賞作品 .....	36
記念式典 第3部 .....	38
記念祭 .....	39
遺品展 .....	40
本田宗一郎生誕100年	
天竜公演 コンテンポラリーダンス .....	41
ミュージカル .....	42
ASIMO SHOW .....	43
ミュージカル・コンテンポラリーダンス練習風景 .....	44
エピソード .....	45
本田宗一郎ゆかりの地 .....	46
本田宗一郎年譜 .....	47
ミュージカル「本田宗一郎物語」楽曲 .....	49
やらまいか .....	52
編集後記 .....	57

## 本田宗一郎生誕記念埼玉公演を振り返って

本田宗一郎顕彰会会長 大橋 武司

平成 18 年 11 月、本田宗一郎さんの生誕 100 年をお祝いし、生誕の地浜松市天竜では、地域の人々の手によって様々な記念行事が行われました。中でも子どもたちが中心となって上演したミュージカル「本田宗一郎物語」とコンテンポラリーダンス「龍水の都」は多くの人々に大きな感動を与えました。

その折、ご臨席いただいた奥様の本田さちさんもこのミュージカルに大変感動され、「是非もっと多くの人々に見ていただきたい」とおっしゃり、平成 19 年 7 月の別府公演が実現しました。

公演後、大きな達成感を味わった子どもたちは、感動と感激を与えてくれた本田さちさんにお礼の手紙を書きました。「機会があればまた上演したい」といった言葉を書いた子どもたちもたくさんいました。そうした子どもたちの思いに応じて、平成 20 年 9 月の川越市における埼玉公演が実現しました。

午後の公演のミュージカルの最終場面、全員が舞台上に登場し「やらまいか」の唄と踊りに場内の観衆が拍手と指笛そしてスタンディングオベーションで応え、出演者も一層盛り上がった場面は、会場の片隅で観ていた自分も感動し体が震えるのを感じました。

天竜、別府、埼玉と公演を積み重ね、改めて本田宗一郎さんの強烈な生き方や素晴らしい人となりを子供たち自身と多くの観衆に感得していただくことが出来たと確信しました。

さらに、本田さちさんは、今回もこの大成功した記念事業を末永く子どもたちの心に刻んでおきたいと考えられ、記録をアルバムとして残すよう提案され、ここにこのような立派な記念誌が完成いたしました。

このアルバムは出演した子どもたちの心に、また関わったスタッフ全員に大きな思い出として残り、本田宗一郎さんの考え方や生き方からの教えとともに生き続けることと思います。

本田さちさん始め、ご協力いただいたホンダ学園の学生さんと先生方、子どもたちとともに活動していただいたスタッフの皆さん、応援していただいた保護者の皆さん、そしてご指導いただいた先生方に心からお礼申し上げます。

## 「本田宗一郎生誕記念 埼玉公演」を振り返って

学校法人ホンダ学園 ホンダテクニカルカレッジ関東 校長 小栗 篤

早いもので、9月7日に開催された「本田宗一郎生誕記念 埼玉公演」から3か月が経過しようとしています。私の脳裏には、今でもミュージカル「本田宗一郎物語」のシーンが鮮やかに蘇ってまいります。

川越市民会館の座席を午前、午後を埋めた三千人の盛況。舞台上に盛られた静から動への熱演は、見る者の心をしっかりと捉え、フィナーレで客席と一体となった歓喜はまさに夢のような瞬間でした。

ご招待をいただいた本校の学生たちも、私たち教職員もほかのお客様も、「おやじさん」の魂に触れることができた時間だったと思います。大きな拍手はいつまでも鳴りやまず、閉幕後もその熱気の余韻を感じることができました。

本田宗一郎は、稀代の天才技術者であり、類まれな成功者であることは言うまでもありません。彼を知らない学生や若い世代にとっては、いわゆる「エライ人」なのです。しかし、今度の公演で彼らを感じたのは、本田宗一郎の人生の結果や評価ではなく、人物の奥深くにある<夢を持ち、夢に真向い、夢を追う>ことの大切さ。まっすぐに、どこまでも真っ直ぐに歩み続けることの素晴らしさだったと思います。この瞬間に本田宗一郎は、若い世代の中に新しい芽吹きとして甦り、語り継がれていくのです。

授業では学生になかなか伝える事が難しいことを、このミュージカルは存分にその役割を担ってくれました。舞台にかかわったすべての方々に、公演を支えたすべての方々に、そしてこの機会を私たちにプレゼントいただいた本田さち様に、心から御礼申し上げます。

昨年の別府公演に引き続き、今回の川越公演と、またまた出演者に大きなプレゼントをいただき、本田さち様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今回は「ホンダ学園」の宗一郎の精神を受け継ぐ若い世代の学生さんたちに観ていただけた事で、公演そのものが活気にあふれとても良いものになったと思います。

当日、満員のお客様で埋め尽くされた会場から、熱い声援や、暖かい拍手をいただいた出演者は、きっと舞台に立つ喜びに溢れたことでしょうし、私も鳥肌が立ちました。

「ホンダ学園」の校長先生のお話しの中に「宗一郎が育ってきた時代は今のようには物が豊かな時代ではなかったが、夢だけはいっぱいあった」という事と「誰かの役に立ちたいという思いが、ものづくりの根底にあった」というお話しがあり、私の心にズンと響いてきました。

それは、夢を持ち続けることが困難な時代の中であって、子ども達には常に夢を持ち続けてほしいと願う私の思いがあり、ミュージカルを通じて子ども達の心を育てたい、ひいてはミュージカルの創作を通して子ども達の心づくりに少しでも役立ちたいと願う、私の気持ちと合致したからです。

今回は宗一郎役が今までの大角真名人君から北内一圭君へと引きつがれました。大角君は作品の中で新しい宗一郎を支えるべく、しっかり存在していましたし、北内君は相当なプレッシャーの中立派に宗一郎を演じてくれました。

こうして宗一郎が次の宗一郎へ、そしてまた次の宗一郎へと引き継がれる事で、子ども達の中にいつの時代も宗一郎が生き続けることこそ、このミュージカルの持つ最大の役割りではないかと思います。

宗一郎と同じ地に生まれ、育ち、暮らす私は、常に誇りを持って宗一郎を語る人でありたいと思います。そして、これまでも、これからも宗一郎は魅力あふれる憧れの存在として、子ども達の心の中に輝き続ける事を願っています。

最後に公演開催にあたり御尽力いただきました本田家の皆様、顕彰会の皆様、ホンダ学園の皆様、壬生ホールの皆様、舞台制作の皆様、保護者の皆様から感謝申し上げます。



## 本田宗一郎の略歴

明治 39 年：11 月 17 日静岡県磐田郡光明村で生まれる（1906 年）

大正 8 年：山東尋常小学校卒業、大正 10 年二俣高等小学校卒業

大正 11 年：4 月東京本郷のアート商会に自動車修理工として入社

昭和 3 年：独立し、浜松にアート商会支店を設立

昭和 8 年：磯部さちさんと結婚

昭和 14 年：東海精機重工業の社長、ピストンリングの製造始める

昭和 21 年：本田技術研究所設立、自転車用補助エンジン開発

昭和 23 年：本田技研工業を設立し社長に、従業員 34 人

昭和 24 年：オートバイ「ドリーム号」開発

昭和 27 年：自転車補助エンジン「カブ F」発売、小型エンジン発明で藍綬褒章受賞

本社を東京に移す。渡米し 4 億 5 千万円の工作機械を発注

昭和 33 年：小型バイク「スーパーカブ」を発売し大ヒット

輸出の足固めをする

昭和 34 年：米国に販売会社「アメリカン・ホンダ」設立

マン島 TT レース初出場

昭和 37 年：ベルギーに生産販売会社「ホンダ・モーター」設立

初の四輪車スポーツカー S360 開発

昭和 39 年：F1 レースへ初参加

昭和 46 年：低公害エンジン CVCC 発表

昭和 47 年：低公害車「シビック・CVCC」発売

昭和 48 年：10 月本田技研工業社長を退任。取締役最高顧問就任

昭和 56 年：勲一等瑞宝章受賞

平成 元年：日本人初の米国「自動車殿堂」入り

平成 2 年：国際自動車連盟（FIA）よりゴールデンメダル賞受賞

平成 3 年：8 月 5 日死去。享年 84 歳

勲一等旭日大綬章追受賞（1991 年）



1988 年 米国自動車殿堂入り



1989 年 撮影

本田宗一郎生誕記念

平成20年9月7日（日）

午前の部 開場／10時30分 開演／11時00分

午後の部 開場／13時30分 開演／14時00分

会場／川越市市民会館

埼玉県川越市郭町1-18-7

記念公演プログラム（午前・午後共通）

- 1 本田宗一郎顕彰会 会長あいさつ
- 2 コンテンポラリーダンス「龍水の都」
- 3 本田宗一郎の軌跡（映像により紹介）
- 4 ミュージカル「本田宗一郎物語」

主催 / 本田宗一郎顕彰会

「龍水の都」文化体験プログラム実行委員会

協力 / 学校法人 ホンダ学園

制作 / (株) 日本シアタサービス (JTS)

スタッフ

◆コンテンポラリーダンス「龍水の都」

ダンス指導 太田 良子 作曲・編曲 山本 裕治

◆ミュージカル「本田宗一郎物語」

脚本・演出・演技・歌唱指導・振付け 芹沢 文子

歌唱指導 関 彰子 作曲・編曲 山本 裕治

舞台監督 酒匂 正博

◆企画 浜松市天竜区 区振興課

◆総司会 寺田 亜矢子



## コンテンポラリーダンス「龍水の都」

～天竜川の雄大さを、ダンスで織りなす～

静岡県浜松市を流れる「天竜川」は、豊かな自然と水の流れにより流域住民の文化交流の橋渡しとしていつの時代も大きく関わってきました。コンテンポラリーダンス「龍水の都」は、人々の暮らしと文化を支えている「天竜川」の雄大さと自然のイメージをオリジナル曲の演奏とダンスで表現しました。

曲名は、「水の旅」、「水しぶき」、「龍水の都」の3曲で、山に降った雨が源流を旅立ち幾筋もの溪流を集め、時には激しく・時には穏やかに南北に流れる「天竜川」を表現しました。

### キャスト

加藤友茉	川坂 萌	澤口奈々	鈴木彩音	伊藤瑞希
遠藤愛理	池田なつみ	田代 悠	三嶽有咲	大地ナナ子
鈴木 彩	中島知里	山下 海	和田果朱美	田中綺乃
中谷皆穂	細井祐子	池田はるか	袴田真央	山本真椰
吉林摩耶	内山 梓			

### 演奏

松井みか 山本裕治 笹竹和行

### REVIEW

「天竜川」の雄大さと美しさが、曲と踊りで表現されていました。



長い旅の始まり



緩やかな流れの中 山の木々を潤す



源流から本流へ



渦巻く川の淵



水しぶきを上げて激しく躍動する



大河へと流れる、終わりのない旅へ

本田宗一郎生誕記念

ミュージカル「本田宗一郎物語」

～本田宗一郎が、いま心の故郷によみがえる～

平成18年11月17日に、郷土の偉人本田宗一郎は生誕100年を迎えました。本田宗一郎のなりふり構わず、ひたむきに努力する姿！夢、希望、目標を見失わない強い精神や親子のあり方にスポットを当て、浜松市天竜に生まれ15歳まで過ごした宗一郎の少年時代の実話をもとに、創作したミュージカルです。

ミュージカル「本田宗一郎物語」は、何事にもあきらめないで挑戦する宗一郎の「やрмаいか！」の精神を、少年時代のエピソードから伝え、夢の実現に向けてエネルギーを与えてくれる作品でした。

キャスト

北内一圭	山田 歩	山本駿介	袴田郁哉	平賀建渡
大角真名人	佐藤希望	山田大介	大栗咲子	金田 彩
櫻井優珠	田光早矢香	岡 みちる	渥美みのり	西田 愛
酒井 藍	酒井 空	生田三紗季	大石 愛	藤澤紫野
光岡香菜子	伊藤杏奈	北内花実	山田 愛	梅林佳美
大栗万友子	岡 みのり	川村美帆	三室輝佳	中田和江
石野良子	大澤恵美	鈴木裕子	寺田亜矢子	村井教子
山田美由貴	内山富勝	今田史隆		

コンテンポラリーダンサー

REVIEW

次世代を担う子供たちが「夢」、「希望」を抱き、また、「親子の絆」についても考えさせられるミュージカルでした。



宗一郎たちのヤンチャぶり、埼玉でも大爆発



ニセ物のハンコがバレて大慌て！



初めて見る飛行機は松の木の上



自動車への憧れはやがて確信へ



「自動車を創る」を胸に旅立つ宗一郎



「やрмаいか！」の心いき、出演者の胸にいつまでも

### 学校法人 ホンダ学園視察



学校法人ホンダ学園・ホンダテクニカルカレッジ関東



小栗篤校長 歓迎あいさつ



ホンダ学園紹介



講義風景

本田宗一郎生誕記念

学校法人 ホンダ学園視察



お楽しみ会 他



本田宗一郎生誕記念

お楽しみ会



お楽しみ会



本田宗一郎生誕記念

埼玉公演当日(楽屋)



川越市 市民会館



埼玉公演当日 (楽屋・リハーサル)



本田宗一郎生誕記念

埼玉公演当日



子どもたちを見守るさちさん



川越市 市民会館 客席



出演を待つ子どもたち



埼玉公演当日



# コンテンポラリー ダンス出演者



埼玉公演楽しかったよ  
楽しくおどることができ  
ました。

加藤 友菜 (光明小学校5年)



埼玉でダンスが  
できてよかったです。

田代 悠 (二俣小学校5年)



埼玉公演楽し  
かったよ。

川坂 萌 (光明小学校5年)



とてもいい経験ができた  
ありがとうございました。

三嶽 有咲 (二俣小学校5年)



ダンスが上手にできた  
ことでも楽しかったよ。

澤口 奈々 (光明小学校5年)



埼玉公演  
とても  
楽しかったです。

田中 綺乃 (鏡山小学校6年)



小学校の先生はいい  
からみんなの公演に参加  
できてうれしかったです。  
またやりたいです。

鈴木 彩音 (光明小学校5年)



埼玉公演の先生  
ベストの管さきあり  
がとうございました。  
とても楽しかったです。

伊藤 瑞希 (光明小学校6年)



埼玉公えん、みんなもあふ  
けれどうれしく楽しかった  
が、もっとたくさんありました。

池田なつみ (二俣小学校5年)



とてもね公演を  
ありがとう。100%  
何年経っても楽しいです  
ね。

遠藤 愛理 (光明小学校6年)



埼玉公演(本田宗一郎さん  
の伝説)天竜の川を  
イメージしておどろくことが  
できて良かったです。

大地ナナ子 (二俣小学校6年)



本田宗一郎さんの  
ストーリーをやるのが、  
初めてだったので、  
とても楽しかったです。

中谷 皆穂 (光が丘中学校1年)



I see dancing very much!  
Dance makes me happy!

吉林 摩耶 (清電中学校3年)



練習はきつかったけれど、  
公演でしっかりと  
踊ることができて  
良かったです。

鈴木 彩 (二俣小学校6年)



練習はきつかったけれど、  
公演でしっかりと  
踊ることができて  
良かったです。

細井 祐子 (光が丘中学校1年)



とても貴重な体験を  
させてくれたと思います。  
良い思い出になりました。

内山 梓 (浜名高校3年)



さいせがおどろくとともに  
楽しかったです。  
スタッフのみなさん、お礼  
ありがとうございます。

中島 知里 (二俣小学校6年)



埼玉公演(本田宗一郎さん  
の伝説)楽しく踊ることができて  
良かったです。

池田はるか (清電中学校1年)



練習はきつかったけれど、  
公演でしっかりと  
踊ることができて  
良かったです。

山下 海 (二俣小学校6年)



埼玉公演への練習は、とても  
きつかったけれど、  
公演でしっかりと  
踊ることができて  
良かったです。

袴田 真央 (清電中学校1年)



練習はきつかったけれど、  
公演でしっかりと  
踊ることができて  
良かったです。

和田果朱美 (二俣小学校6年)



埼玉でたくさんの方の前で  
踊ることができて  
良かったです。

山本 真椰 (清電中学校1年)

# ミュージカル 出演者



私は初めて本田宗一郎物語に参加しました。  
この人 活躍を 感じることが出来たので ありがとうございます。  
私も 夢を 追いかけてみたいです。

大栗 咲子 (熊小学校4年)



夢挑戦実現  
🙏 ありがとう!

北内 一圭 (下阿多古小学校6年)



私は本田宗一郎物語に参加しました。本当に楽しかったです。みんなと協力していい舞台が出来ました。みんな、ありがとうございました。

金田 彩 (熊小学校4年)



本田宗一郎物語に参加して楽しかったです。またやりたいです。

山田 歩 (城北小学校6年)



公えんにおきてたくさん練習をしました。いろいろなダンスや音楽も覚えるのが楽しかったです。また機会があれば他のところでも行ってみたいです。

櫻井 優珠 (中瀬小学校4年)



本田さきさん!!  
ありがとうございます。  
楽しかったです! また! 😊

渥美みのり (二俣小学校6年)



みんなと、一緒に練習して楽しかったです。  
ありがとうございました。

田光早矢香 (光明小学校6年)



楽しく公演ができたのでよかったです。  
ありがとうございます。  
ごさいました。

西田 愛 (二俣小学校6年)



舞台上でみんなと一緒に歌ったり踊ったりすることが出来たので楽しかったです。みんなのおかげです。本当にありがとうございました。

岡 みちる (下阿多古小学校6年)



夢が実現  
みんなのおかげ  
Thank you!!

山本 駿介 (積志中学校1年)





16日公演で大感謝でした！  
 貴作のライブは、とても面白  
 かつ、感動的でした。その中でも  
 是非「SOS」の曲が印象的であ  
 りました。これからも、貴作の  
 活動に、応援させていただきます。

梅林 佳美 (浜松海の星高校1年)



とーん!!  
 と感謝

山田 大介 (浜松工業高校2年)



ステキなメンバーに囲まれて  
 埼玉公演に参加させていただけ  
 幸せ & 楽しかったです。  
 ミュージカル大好き♡  
 ♡ みんな大好き!!

寺田亜矢子 (一般)



この公演は、一生おぼえています。  
 “やらまいが魂”が伝わります。  
 ありがとうございました。

大菜万友子 (浜松市立高校1年)



夢を  
 ありがとう。

中田 和江 (浜松西高校3年)



この公演は、人生  
 最高の思い出です。  
 ありがとうございました。

村井 教子 (一般)



すべての方に書ききれないほどの感謝も  
 ありがとう  
 ございました!!!

岡 みのり (浜松北高校1年)



贈る程に愛の言葉  
 貴作の音楽は、心に残ります。  
 ありがとうございました。

石野 良子 (一般)



高知の公演に参りました。  
 中国風ミュージカル、この素晴らしい曲  
 に感動です。夢  
 ありがとうございます。

山田美由貴 (一般)



本日は一歩も!! 大好きな楽器  
 演奏で公演は、最高の思い出  
 になりました。ありがとうございました。

川村 美帆 (浜松市立高校1年)



自分の無知で、知識をT1に  
 教わることができた。  
 ありがとうございました。  
 感謝!!!

大澤 恵美 (一般)



貴重な体験させて下さり  
 皆さんに感謝しています  
 ありがとうございました

内山 富勝 (一般)



みんなと一緒に舞台に立て  
 ました。ありがとうございます。

三室 輝佳 (浜松海の星高校1年)



憧れの作品に出会える事が出来  
 ました。ありがとうございます。  
 この作品に、ますます興味した  
 今までの経験、感謝し、あり  
 ます。ありがとうございます。

鈴木 裕子 (一般)



夢の舞台に出会えることが、  
 最高の夢の舞台show!  
 福の人“ありがとう”

今田 史隆 (一般)

# 感想文 ⊕ 手紙

## 二俣小学校5年 池田なつみ

埼玉公演をするという事が決まってからは、ひまさえあればダンスの練習をがんばってきました。埼玉へ行く当日、すごくわくわくしました。初日は夜中だったので、友達と少し話しをしてからねました。こんなことはあまりないので、うれしかったです。次の日、本田学園へ行って車について勉強している姿をたくさん見ました。車の修理や部品についてとてもいねいに教えてくれました。たのしかったです。ありがとうございました。そしてリハーサルでぶたいを見たときは、大きくてびっくりしました。上手におどれるのか心配になったけれど、本番大勢の人の前でおどれて、気持ち良かったです。埼玉公演をやれてダンスが、もっと好きになりました。ありがとうございました。

## 鏡山小学校6年 田中 綺乃

さちさん、埼玉公演をさせていただきありがとうございます。

私は「龍水の都」をおどるのがはじめてだったので、最初はちゃんとおどれるかとても不安でした。けどたくさん練習をしていくうちにおどるのが楽しくなってきました。おどるのが楽しくなってきたのでだんだん埼玉公演が楽しくなってきました。

ミュージカルの「本田宗一郎物語」でおどる自動車では、かきで体全体をかくのがむずかしかったです。それに笑顔を忘れてしまうことが多かったので、笑えるようになるまで苦労しました。

埼玉公演まであと一週間くらいの時からホールで練習をしました。先生に注意されたところをなおして完ぺきにおどれるようにがんばりました。

いよいよ発表会になったとき、お客さんがいっぱいいてきんちょうしてしまいました。けど今まで練習してきたせいを出きって大きくせい一ぱいおどることができました。ミュージカルも笑っておどることができました。楽しかったです。

さちさん、本当にありがとうございました。

## 二俣小学校6年 大地ナナ子

本田さちさん、私達の埼玉公演での、費用やおかしなど、たくさんの物をいただき、ありがとうございました。

私は、この「龍水の都」を発表するのが初めてで、とてもわくわくとした気持ちで、埼玉へと向かいました。出発の時はあまりきん張していなかったのですが、埼玉へ近づくにつれ、だんだんきん張が高まっていきました。埼玉に着いたころには、もう発表のことしか頭にありませんでした。

そして、とうとう、本番の日がやってきました。公演は、午前の部と午後の部で、2回ありました。どちらの公演も、本田宗一郎さんの住んでいた天竜の川をイメージしておどることができてとても良かったです。

本田さちさん、これからどうかお元気でいて下さい。本当にありがとうございました。

## 光が丘中学校1年 中谷 皆穂

さちさん、埼玉公演をさせていただきありがとうございます。

私は、「龍水の都」のダンスをやるのは、初めてでした。なので、しっかり、ダンスがおどれるか、とても心配でたまりませんでした。

「亜細亜」のときにも、おかしやジュースをくださりありがとうございました。とっとうれしかったです。さちさんのおかげで、「亜細亜」のダンスも、しっかり、まちがえずにおどることができました。とっつても、たすかりました。

埼玉に行ってから、本田学園を見学させていただきました。本田学園では、お兄さんや、お姉さんたちが、一生けん命勉強しているところをみせていただき、とってもいい勉強になりました。

本番当日では、午前と午後、2回も公演を見ていただきありがとうございました。さちさんのおかげで、ダンスに、しゅうちゅうして、とりくむことができました。

どうもありがとうございました。

## 清竜中学校1年 池田 はるか

こんにちは、埼玉公演では、ありがとうございました。

私は、中学一年生です。

部活が始まりダンスと部活の両立ができるのか心配でしたがダンスを踊りたいという気持ちでがんばってきました。

埼玉公演では、自分なりに一番の演技が出来ました。

そして、大勢の人達の前で、踊ることができて楽しく、気持ちよかったです。辛い時もあったけれど、やりとげる喜びを学びました。

ダンスやミュージカルを通じて自分だけではなく、観ている人たちにも楽しい気持ちになってもらえたこと、同じ気持ちになれたことが嬉しかったです。

本田学園では、車やバイクのことについて親切に教えて下さり、ありがとうございます。ありがとうございました。

この経験を活かしてこれからも夢に向かってがんばります。  
このような場を設けて下さりありがとうございます。

### 光明小学校6年 田光早矢香

私は埼玉公演に出て学んだことがたくさんあります。一つの夢を追いかける本田さんがいろいろなことをのりこえ、今では知らない人がいないほどです。私の心に残っているのは、本田さんが自転車で浜松まで飛行機を見に行ったところ。20キロもある道のりを往復した話です。自転車でそんなに走れるなんて本当に見たかったんだなあと思いました。私だったらそこまでできません。

もう一つは、本田さんがなりたいものを決めた自動車登場のシーンです。私も本田さんのように夢をつかんだらなさないようにがんばっていきたいです。

### 下阿多古小学校6年 岡 みちる

今回、さいたま公演をさせていただきありがとうございます。チェイサーが終わって幕があがった時のたくさんの拍手とかん声を今でも覚えています。かん声を聞いた時、わたしはうれしくて泣きそうになりました。それは、今までやってきた厳しい練習のおかげで、本番で大成功したからだと思います。わたしは、前回の九州公演では、出発前に病気にかかってしまい治りきらないまま出演したので、すべての力を出し切ることはできませんでした。でも、今回のさいたま公演では、元気に出演できたので、すべての力を出し切ることができ、とても気持ちよかったです。

また、ホンダ学園を見学させていただき、ありがとうございました。ホンダ学園の人たちみんなが「本田さんのことが大好きです」「すごく憧れています」「いつか本田さんみたいな人になりたい」という気持ちがよく伝わってきて、わたしはとても感動しました。わたしは、そこまであこがれている人がいないので、そのような人がいるってすごいなあと思います。

わたしも本田宗一郎さんみたいに、夢を持ちつづけて、何事もあきらめないで生きていきたいです。そして、いつかその夢を実現させたいです。

これからもお元気でお過ごしください。

### 城北小学校6年 山田 歩

今回、初めて『SOICHIRO物語』に参加しました。ぼくはミュージカルをやり始めて、一年ちょっとです。ずっと兄や姉がやっているのを見て「いいな、やってみたいな」と思っていました。一緒に練習に参加できるようになってとてもうれしかったです。

そして今回『幸次』役をやらせてもらいました。初めてなのに役が務まるかな、大丈夫かなと最初は心配でした。でも台詞やダンスを繰り返し練習していくうちにどんどん自信がついてきました。

そして本番では、お芝居もダンスも楽しくやることができました。

『埼玉が好きとか、ありがとうございます本田学園っていった方が良かったんじゃないか』という喜代次とのシーンで、お客さんがたくさんの拍手と笑い声をくれた時は、本当にうれしかったです。ミュージカルをはじめて本当に良かったと思いました。この作品に参加できて良かったです。

ぼくはまだミュージカルの経験は少ないけれど、舞台はとても楽しいです。ミュージカルは、自分が楽しいだけでなく、人に夢や喜びを分けてあげられるものだと思います。そんなミュージカルを、ぼくはずっと続けていきたいと思っています。『SOICHIRO物語』に参加して、本田宗一郎さんは夢を大切にする人だと思いました。技術は人の幸せのためにあるという生き方も知りました。すごい人だなとあらためて思いました。

ぼくもぼくの夢を大切に、今回の経験を活かしながら、これからもがんばっていききたいと思っています。

### 積志中学校1年 山本 駿介

ぼくは、この本田宗一郎物語が四回目の公演でした。そしてぼくがミュージカルを始めたきっかけが本田宗一郎物語でした。ぼくは、お父さんが曲を作っているの、いままでお父さんが作った曲のミュージカルはだいたい見たと思います。それを見ても、あまりミュージカルをやろうとは思っていませんでした。しかし、本田宗一郎物語を見て、なぜかやりたいなと思ってはじめました。

今回の本田宗一郎物語では、いろいろなシーンに出させてもらいすごく嬉しく思っています。

ぼくは、いつか夢を持つ時がくると思います。その時は、その夢に向かって本田宗一郎さんのように挑戦、それを実現させられるようにがんばっていききたいと思っています。

## 光が丘中学校1年 平賀 建渡

今回、ぼくは四度目の『本田宗一郎物語』の埼玉公演があると聞き、出演しました。オーディションがあり、ボロボロだったので、ひやひやしましたが、受かったので、ひとまず安心しました。

しかし、受かったというと、異常な緊張感が迫ってきました。

練習では、いろいろ変わる所もあるし、立ち位置なども覚えなくてはいけないので、大変だったし、中学生になったので、部活もありました。しかし、そういうことなどを、乗り越えて、出発の時がきました。

こうして、埼玉に行けるのは、スタッフさん達のおかげ、そしてさちさんのおかげなので、できる限りの力を使い果し、全て悔いのないようにやっていきたいと思いました。

一日目は、ちゃんと睡眠を取っておきたいと思いました。

しかし、全く眠れず寝たのは、二時間半位でした。

二日目に、ホールに行き、通した時には、もう眠気はふっとんでいました。（がんばって、明日は成功させるぞ！）という気持ちでいっぱいでした。そして、本番当日には、あまり緊張感はありませんでした。

失敗する事は無く、成功しました。

しかし、チェイサーをしている時には、少しだけ寂しさを感じました。

この埼玉公演は、楽しくでき、そして、団結力という大切なものを教えてくれたと思いました。

先生方、スタッフのみなさん、そしてさちさん、本当にありがとうございました。

## 清竜中学校1年 酒井 藍

今回も、こんな貴重な体験ができたのも、さちさんのおかげです。本当にありがとうございました。

今回は、埼玉県川越市民会館というところで行いました。

なれない初めてのところで、それもとても大きいところでの公演でした。だから最初はすごくびっくりしました。

わたしの目標は、「笑顔」でした。レッスンのときから先生に「表情が暗い」と言われていたので、歌うときなどは、特に気をつけようと思っていました。でも、壬生ホールでは、通用する表情でも、今回会場になった川越市民会館はとても広いところだったので少し不安でした。本番では、精一ぱいの笑顔でできました。きん張ってたけど、自分も、とても楽しかったからできた笑顔だと思います。一回目のときも、お客さんがたくさん見に来てくれて、うれしかったけど、2回目は、もっと見に来てく

れて、すごい反応も返してくれたのでうれしかったです。こんなにも多くの人が、わたしたちの公演を見に来てくれるなんて、正直びっくりしました。また、こんな大勢の人の前で公演はあまりないことなので、うれしさも感じました。それと同時に本田さんは、本当に世界の本田なんだと改めて感じました。

本当に今回は、みんなと協力できたし、自分の目標も、成しとげることができたので満足です。それに大勢の人がわたしたちを見に来てくれたことがうれしかったです。舞台を作りあげてくれた人々に感謝です。ありがとうございました。

## 清竜中学校1年 酒井 空

「本田宗一郎物語」を他の県で公演するのは、これが2回目でした。なので、その舞台に立つきんちょう感は、行くまであまりありませんでした。

埼玉県に行くバスに五〜六時間くらい乗っていましたが、そのときには埼玉公演をやるきたいといううれしさがあって、つかれなどは全然感じませんでした。富士山など有名な物も多数見られて、とても興奮しました。

私たちの泊まるホテルはとてもきれいで、つかれていた私には、とてもうれしかったです。その日はぐっすりねむれて、次の日の視察と練習は気持ちよく行動できました。

本田学園はとてもきれいなところで、しかも本田宗一郎さんが建てた場所だと聞いて、とてもびっくりしました。すごいところなんだと思いました。本田学園の学生さんの中には、女性の方もいておどろいたけど、気持ちのよいあいさつをしてくれたので、とてもうれしかったです。

その後、いよいよホールに着き私は埼玉に来て始めてきんちょうしました。壬生ホールより広く本番はすこし不安になりました。しかも楽屋の道と舞台へ行く道が一緒になっていたのも、あまりなれなく本番は間に合うか心配でした。

次の日はいよいよ本番。不安の中「本田宗一郎物語」が始まりました。でもその不安はすぐにどこかに消えてしまいました。それはたぶん埼玉に住んでいるみなさんが私たちに快くむかえてくれたからだと思います。公演は無事に終わり、私はうれしい気持ちでいっぱいでした。

ミュージカルのみなさん、そして先生方のおかげで、今年もよい舞台になったと思います。どうもありがとうございました。

## 清竜中学校1年 大角真名人

祝『本田宗一郎生誕記念公演』4回目！！と言うことで、本田宗一郎生誕99周年から今回の埼玉公演まで、4回も公演してきました。とても、うれしいことです。

今回の埼玉公演は、別府公演とは違い超ハードスケジュールでした。それでも、公演している時は、とても幸せでした。第一部の公演は、ウケを狙うところが全滅でした。しかし、第二部の公演は、観客のノリがよくて、よくウけてくれたので、とてもやりがいがありました。

このような機会をあたえてくださったさち様、本田宗一郎顕彰会の皆様、先生方、スタッフの皆様、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

#### 浜松日体中学校1年 袴田 郁哉

今回の公演は、とても印象に残りました。今までやってきたミュージカルの中で一番良かったと思います。出演者や陰で支えてくれる人、それになによりお客様がとても良い人ばかりでした。このミュージカルを通して夢を追いかけるすばらしさを改めて感じました。自分も夢をあきらめちゃだめなんだなあ…あきらめなければ、追い続ければ夢は叶うんだなあ…と、つくづく思いました。…先生！いつもふざけてばかりの僕達に演技やダンス、歌など真剣に教えてくれて、ありがとうございました。スタッフの皆様！迷惑かけてばかりの僕達を支えてくれて、ありがとうございました。出演した仲間みんな！小さい子から、ちょっと歳の…(笑) みんなで一つになって、一つの舞台を作り上げたこと、スゲー楽しかったよな？みんな、ありがとう。さちさん、このような貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。そしてなにより本田宗一郎さん、世界中の人や僕達に夢をありがとうございました。

#### 北浜東部中学校2年 大石 愛

「SOICHIRO物語」が今年は埼玉公演？昨年、大分でやらせてもらえただけでもうれしかったのに？世界のHONDAのすごさと、さちさんが宗一郎さんをほこりに思う気持ちに圧倒されました。そして、さちさんに感謝、感謝です。

私はこれで三回目の「SOICHIRO物語」です。一回目はミュージカル自体も初めてだったので、常に緊張していて、何を考えながら参加していたのかも覚えていません。

でも、三回目の「SOICHIRO物語」では、いろんなことを感じる事ができました。

残念ながら、今回は前より出番が減ってしまい、「私はこのミュージカルに参加しているのか」なんて思ったりもしました。でも、逆に舞台裏からよく見てみると、改めていろんなことに気が付くことができました。

例えば、

「やっぱり、このミュージカルの歌の歌詞はいいなあ」だとか、

「このシーンのこのセリフはジーンとくるなあ」だとか…。

でも、やっぱり、歌詞でもセリフでも、このミュージカルを見た人の心に残るのは「やрмаいか」じゃないかなと思いました。

作文は苦手なので、あまり上手く書き表せられませんが、本当にさちさんに感謝しています。ありがとうございました。

#### 高台中学校3年 山田 愛

今回は、こんなすばらしい舞台に立たせていただき、ありがとうございました。

私自身、この『SOICHIRO物語』の舞台に立つのは、三回目ですが、この埼玉公演はとても楽しく取り組むことができました。

今回は、ダンスもバージョンアップして、特に「メカニック」のダンスは難しくなり、覚えるのが大変でした。夏休みを挟んでの練習日程も、中三として夏の中体連最後の試合と重なったり、勉強もありで、三つを同時に両立させていくことは、結構苦労しました。しかしそれも自分にとっては良い経験になったと思います。

本番では、自分なりに納得のいくダンスや芝居ができたのではないかと思います。

そして何より、公演が終わった時の観客の皆さんの大きな拍手と口笛に感動しました。あんなにすごい、興奮を表現してくださるお客さんの反応は、初めてだったので、とてもうれしかったです。なかなかこんな経験は出来ないと思うので、この舞台にたてたことは、本当に幸せだと思います。

そして先生はじめスタッフの皆さん、出演者の仲間たち皆で作り上げていく、大切さやすばらしさを学びました。

この経験を励みに、これからも私はミュージカルを続けていきたいと思っています。

ありがとうございました。

#### 浜松海の星高校1年 梅林 佳美

今回の埼玉公演は、私にとって最高の思い出になりました。前回の大分公演も含めて、私は、二回本田宗一郎物語をやらせていただきました。

前回の大分公演は、初めての本田宗一郎役で、わからないことだらけでしたが、まわりの人たちが助けてくれたり、教えてくれたりして、色々な面でみんなに支えられてきました。埼玉公演でも、宗一郎役で出演させてもらいましたが、今回は二度目なので前回よりも少し不安がなくなりましたがとても緊張していました。そこでもやっぱりみんなが支えてくれたからこそ頑張ることができました。スタッフのみな

んや、衣装係のお母さんたち、そしてこの物語を作ってくれた芹沢先生にありがとう！という気持ちでいっぱいです。またこんな舞台ができたらいいです。

### 浜松市立高校1年 大乗万友子

さち様を始め、全ての皆様に感謝の気持ちで一杯です。すてきな経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

今でも埼玉の公演のことを、よく思い返します。幕が上がるまでの緊張、ライトがととても気持ちよかったこと、最後のお客さんのあたたかい拍手とスタンディングオベーション——ミュージカルをやっていた約一時間、本当に夢中で、大きな幸せを感じながら、楽しく舞台にたっていました。

今回のこの経験のおかげで、私は天竜がさらに好きになり、本田さんの偉業をもっと多くの人に知ってもらいたいと思いました。私は本田さんと同じこの天竜という場所で生まれ、生活しています。将来この地をはなれるとしても本田さんのような「やらまいか魂」を胸に頑張っていきたいと思います。

今回のこの公演で本田さん、ホンダ学園の方々、その他大勢の方たちにとても大きな力をいただきました。これから、自分が何でその感謝を返していけるか考えていきたいと思います。

最後に、今までご指導下さった先生方、今までお世話になった全ての方々本当にありがとうございました。

### 浜松北高校1年 岡 みのり

「さあ、やらまいか！」チェイサーの最後に出演者全員が叫ぶと、たくさんの暖かい拍手と声援が客席から勢い良く飛んできました。私はすごく感動しました。こんなに拍手で感動することは今までにありませんでした。私もこれまで客席では普通に拍手をしてきましたが、今回いただいた拍手は特別に思えました。それは、私たち出演者が舞台でお客さんに伝え、お客さんがそれに答えて返してくださるという会話のような拍手だったからだと思います。お世辞だったかもしれません。頑張ったね、という拍手だったかもしれません。でも私は、すごく嬉しかったです。

今回の舞台も、私は大好きなミュージカルを思う存分に楽しみました。たくさん歌ってたくさん踊りました。そして、「本田宗一郎さんってすごいんだ。本田宗一郎さんが大好きだ。」という思いを客席のみなさんと共に感じ合うことができたと思います。客席と一体になれた素敵な時間でした。幸せでした。終わると涙が溢れました。言葉に表せないくらい楽しかったです。

機会を与えてくださった本田さち夫人に、心から感謝します。本当にありがとうございました。

### 浜松市立高校1年 川村 美帆

「大変な目標だ、だからこそチャレンジするんだ。」この本田宗一郎さんの言葉が私の心に深くつきさりました。何事にも前向きな姿勢で、自分の夢に向かってどんどん挑戦していく姿。それが世界の本田。

明治39年、11月17日に光明村に出生した本田宗一郎さんは、子どものころから自動車に興味があり父の鍛冶屋を手伝いながら、いつか自分の自動車をつくるという思いがありました。彼は遠く離れたところに、たった一人で行くこともあり、私はそれを初めて知ったとき彼の物に対しての思いは誰にも負けないのだと思いました。私にも大好きなものがありますが、はたして宗一郎さんのように誰にも負けないのでしょうか。きっと人生の全てをかけ夢を追いかけた宗一郎さんのようににはできないと思います。あらためて偉大さを感じました。

宗一郎さんの職人の腕は、とてもすばらしく、世界の本田と呼ばれるようになりました。しかし、そこまでたどり着くまでには並大抵の努力ではいけないということ、私は今回の公演で学びました。今までの自分を振り返ると、とても恥ずかしくなりました。だから私も宗一郎さんのように、夢を追いかける強い精神力を見習い「やらまいか」をモットーに、途中であきらめず進んでいきたいと思います。

最後に、埼玉公演の主催をしてくださった本田さちさん、そして共催、協力をしてくださった関係者の方々、本当に感謝しています。ありがとうございました。

### 浜松海の星高校1年 三室 輝佳

「本田宗一郎物語」がもう一度できる。

それを知ったとき本当にうれしかったです。「大好きな宗一郎物語の舞台にまた立てる。精一杯頑張ろう。」と思いました。

昨年の別府公演に続いて埼玉公演。わくわく、どきどきしていました。

午後の部の公演では、「やらまいか」が終わったとき大きな拍手をもらいました。そしてチェイサーが終わったとき客席からの大きな大きな拍手と歓声。舞台と客席が一体となったような感じでした。とても感激し、「宗一郎物語の舞台に立てて良かった。幸せだな。」と思いました。

ミュージカルをご覧になった方々に本田宗一郎さんのすばらしい人生を知っていただけたと思います。

ホンダ学園の見学、お楽しみ会まで用意していただき本当にありがとうございました。初めてみる自動車、バイクの整備。とても興味をもちました。

これからの人生で、苦しいことや大変なことに直面したときは、今回のミュージカルとおして知ることができた本田宗一郎さんの生き方や考え方を思い出して苦難や困難を乗り越えて夢に向かって一步一步進んでいきたいと思います。

さちさんのお力添えがあったから二年続けての県外公演ができたと思います。本当に幸せなことです。

さちさん、本当にありがとうございました。これからもどうぞお元気で過ごして下さい。最後に、芹澤先生、多くのスタッフの方々に感謝したいと思います。

### 浜松工業高校2年 山田 大介

別府公演に引き続き、みんなとミュージカルをやれて、本当に良かったと思います。

男の子の後輩にも囲まれて、楽しく練習も参加できました。

公演での三役早代わりも、貴重な良い経験になりました。

またみんなでやれる日を祈っています。

どうもありがとうございました。

### 浜松西高校3年 中田 和江

キラキラと輝く照明、場の雰囲気を作り出す音響、それぞれの個性と個性とを織り混ぜ高めあい、「劇」という名の一つの芸術を創る役者たち。舞台には“夢”がある。

私が初めて、ミュージカル「本田宗一郎物語」に出会ったのは中3の頃。それから既に4年の歳月が流れた。プレ公演から数えること4回目の公演。初期から随分とメンバーも入れ替わったため、練習開始当初は人間関係づくりにも苦労したりした。私は元々人前に立って何かを成すことを得意としない性格だったため、初対面の人間に自ら話しかけることができなかつたのだ。けれど「劇」とは不思議なもので、いつの間にか互いの役を通じて、役者もまた互いの心を通わせられるようになるものなのだと気がついた。人と人が打ち解けるには、ほんの少しの契機さえあればいいのだ。協力して一つの世界を創ろうとすることで、今まで知らなかつた互いの一面も見えてくるのだと。今公演の稽古中に4年間一緒にやってきたメンバーの意外な一面を発見できたときは嬉しかった。

今回の公演で、私はしばらく舞台の世界から離れることになる。少し寂しい気もするが、社会へ出て自分を磨き直して、またいつかこの世界に帰ってこれたらいいと思う。「本田宗一郎物語」で始まった「表現者」としての私の舞台は、4年越しの「本

田宗一郎物語」で一度幕を降ろす。そんな思い入れの深いミュージカルを、埼玉という大きな舞台でやれたことは、私にとって一生の思い出となるだろう。こんな素晴らしい機会に巡り合えた私は幸せ者だ。そして、その機会を作ってくださった本田さち様、ならびに本田宗一郎顕彰会・「龍水の都」文化体験プログラム実行委員会の関係者様各位には感謝してもきれない。また長年指導をしてくださった先生方にも深く御礼を申し上げたいと思う。「本田宗一郎物語」で関わった方すべてに感謝を…。 “夢”をくださり、ありがとうございました！

### 一般 寺田亜矢子

昨年の別府公演に引き続き、今年は埼玉公演という素晴らしい機会を私達に与えてくださり、誠にありがとうございました。

天竜の大好きな仲間達と、もう一度「本田宗一郎物語」をやることが出来ると知った時は本当に嬉しかったです。

私は前回同様、総合司会も務めさせていただきました。広い観客席に満席になる程のお客様が入り、公演を楽しみにしてくださっている様子が舞台上の私にもひしひしと伝わってきて嬉しく思いました。

今回はホンダ学園ホンダテクニカルカレッジ関東の学校見学もさせていただきました。見学中、廊下ですれ違った学生さんから「こんにちは」という積極的な挨拶や、即戦力となれるようにきめ細かい技術を身につけていることなども説明していただき、本田宗一郎さんのモノづくり・人づくりに対する強くて熱いスピリットを感じる事が出来ました。又、公演には多くのホンダ関係者様にお越しいただき公演中も盛大な拍手喝采で盛り上げていただきました。私達もとても気持ちが高まり大きな達成感・喜びを味わうことが出来ました。

今回の公演に参加させていただくことで、また新たな出会いがあり、みんなで一つのものを作っていく楽しさや喜びを通じて絆も更に深めることが出来、得るものがとても多くありました。

この公演を行うにあたり本田宗一郎顕彰会・実行委員会の皆様など、多くの方々が長期にわたり様々な準備をしてくださりました。私達に関わり支えてくださったすべての関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の公演もさち様にご覧いただき、再びお会い出来たことも素敵なプレゼントであり思い出です。ありがとうございました。お体に気をつけていつまでもお元気でいて下さい。

## 一般 山田美由貴

今回、初めてミュージカル「本田宗一郎物語」に出演させていただきました。さち夫人のご好意で別府公演に続き、今回の埼玉公演を実現下さって心より感謝申し上げます。地元を離れ、大きな舞台に立てる経験は、なかなか出来るものではありません。一生の思い出の宝物になっていくと思います。

今まで子ども達を通して触れていた本田宗一郎さんでしたが、自分が共に埼玉公演に参加し、本田学園の見学や、会場準備や観に来てくださった方の空気を通して、改めて本田さんの人となりのすばらしさに深く感銘を受けました。「私は、本田宗一郎が大好きです。彼の教えの『技術は人を幸せにするためにある。』という精神が大好きだ」との本田学園の校長先生のご挨拶も胸に響くものでした。新しい物を作り出していく、そのことだけで容易に人生の目標になりますが、“物を作り出すのは、まず人の幸せのため”という思いやりや優しさのこもった大志がたくさんの人を魅了する一因だと感じました。本田学園のような自分の技術を惜しみなく伝えていく施設を作るという発想、そしてそこで学ぶ学生や（60代の方もいると聞きました。）先生方の熱意が伝わり、私自身も“まだまだやれるかも”のワクワク感と、元気エネルギーを頂きました。

舞台に立ちお客様に見ていただく為には今自分の出来ることを精一杯出し切る責任感がが必要です。出番はもちろんの事、袖では次の出番の為に支えあう事のできる仲間が必要です。その出来る仲間と出会えた事は、私の財産だと思います。そして出演者として3人の先生はじめたくさんのスタッフクルーの支えによって、この舞台に立てた事に感謝の気持ちで一杯です。私達を快く送り出し応援してくれた家族の存在も幸せな事だと思います。今後もこの出会いに感謝し、夢見るはりきりママでいたいと思います。さち夫人のご健康とお幸せを心よりお祈りしております。ありがとうございました。

## 一般 今田 史隆

プレ公演から数えて早四回目となる本公演。今回は配役を一新し、新たな気持ちでの再出発となりました。

最初の頃は不安もありましたが、指導して下さった芹沢先生はじめ、陰に日向に支えて下さったスタッフの皆様、そして何より子供たちの元気な姿に励まされ、埼玉公演を迎える事が出来ました。

母校、光明小学校（旧山東尋常小学校）の大先輩であり、郷土の偉人にして夢追い人。知れば知るほど好きになり、同時に「彼の如くありたい」と強く願うようになり

ました。

私は今、プロの俳優を目指して上京し、稽古稽古の毎日です。その中には苦しい事や悲しい事、時には投げ出してしまいたくなる時もありますが、そんな苦労や苦悩の中にこそ、本当の大切な「何か」があるのではないかと思います。

最後になりましたが「SOICHIRO物語」公演にあたり、全面的な支援を下さったさち様はじめホンダ学園の皆様、指導して下さった先生方、支えて下さったスタッフの方々、そして関って下さった続ての方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



1928年 22歳で独立。  
アート商会浜松支店を設立▶



1946年 無線機用発電機を改造し自転車に装着



1979年 荒川にてカーチス号（復元）を試乗

本田宗一郎生誕100年記念

平成19年7月29日（日）

昼の部 開場／13時00分 開演／13時30分

夜の部 開場／17時00分 開演／17時30分

会場／B-con plaza 「フィルハーモニア ホール」

大分県別府市山の手12-1

記念公演プログラム（昼・夜共通）

- 1 本田宗一郎顕彰会 会長あいさつ
- 2 ASIMO ショー
- 3 「ロック太鼓」
- 4 コンテンポラリーダンス「龍水の都」  
<休憩>
- 5 本田宗一郎の軌跡（映像により紹介）
- 6 ミュージカル「本田宗一郎物語」

主催 / 本田宗一郎顕彰会

「龍水の都」文化体験プログラム実行委員会

協力 / ホンダ太陽（株）・（株）ホンダロック

制作 / （株）日本シアタサービス（JTS）

スタッフ

◆コンテンポラリーダンス「龍水の都」

ダンス指導 太田 良子

作曲 山本 裕治

◆ミュージカル「本田宗一郎物語」

脚本・演出・演技・歌唱指導 芹沢 文子

歌唱指導 関 彰子

作曲 山本 裕治

舞台監督 酒匂 正博

◆企画 浜松市天竜区 区振興課

◆総司会 寺田 亜矢子

受章した勲章の一部紹介



◀レオポルドII世勲章  
グラン・クロワ章  
平成2年6月  
ベルギー王国から  
受章。  
(「ユーロパリア 89  
ジャパン」の功績から)



◀勲一等旭日大綬章  
平成3年8月28日  
日本国から受章。  
既に昭和56年 自動車  
産業の発展に貢献  
または行政運営の円  
滑化に寄与したことを  
認められ、勲一等  
瑞宝章を受章。



◀アメリカ自動車殿堂  
(A.H.F.)記念メダル  
平成元年10月10日  
アメリカ  
日本人として初めて  
の自動車殿堂入り記  
念メダル。

## ロック太鼓

～愛と力と心を込めた、和太鼓が響く～

「ロック太鼓」は、(株)ホンダロックの女性従業員で結成された和太鼓チームです。(株)ホンダロックは、昭和37年に本田宗一郎が設立した会社です。これが縁で宮崎県からかけつけてくれました。

打ち手の皆さんからのメッセージです。「平成9年、(株)ホンダロック創立35周年の記念式典で太鼓と出会い、太鼓に魅了された女性社員たちで、平成10年4月に“ロック太鼓”を結成しました。太鼓のすばらしさと、太鼓を打つ私達の元気を一人でも多くの人に伝えられるよう『愛と力と心を込めて』太鼓を打ちます。」

### キャスト

長友直美 青木愛紀 野上麻衣 日高小百合 宮迫朱里  
大木あずさ 齊藤春佳 岡本愛美 那須ななみ 日高あずさ  
今泉 薫 鈴木加代

### REVIEW

勇壮な「ロック太鼓」のすばらしい響きを体感しました。



「かつぎ桶」で華やかなオープニングを飾りました



「締太鼓」3人によるソロ演奏



一糸乱れぬバチさばきを披露しました



本田宗一郎生誕100年記念

コンテンポラリーダンス「龍水の都」

～天竜川の雄大さを、ダンスで織りなす～

静岡県浜松市を流れる「天竜川」は、豊かな自然と水の流れにより流域住民の文化交流の橋渡しとしていつの時代も大きく関わってきました。コンテンポラリーダンス「龍水の都」は、人々の暮らしと文化を支えている「天竜川」の雄大さと自然のイメージをオリジナル曲の演奏とダンスで表現しました。

曲名は、「水の旅」、「水しぶき」、「龍水の都」の3曲で、山に降った雨が源流を旅立ち幾筋もの溪流を集め、時には激しく・時には穏やかに南北に流れる「天竜川」を表現しました。

キャスト

中島知里	鈴木 彩	村松美緒	遠藤愛理	細井祐子
市川千遥	岡部奈津美	鈴木郁美	黒川沙織	金指里奈
花島栄莉菜	小木亜純	吉林摩耶	吉林晃穂	山下 海
内山 梓				

演奏

松井みか 山本裕治 笹竹和行

REVIEW

「天竜川」の雄大さと美しさが、曲と踊りで表現されていました。



長い旅の始まり



山に降った雨が天竜川へ流れ込む



大河へと流れる、終わりのない旅へ



水しぶきを上げて激しく躍動する



## ミュージカル「本田宗一郎物語」

～本田宗一郎が、いま心の故郷によみがえる～

昨年11月17日に、郷土の偉人本田宗一郎は生誕100年を迎えました。本田宗一郎のなりふり構わず、ひたむきに努力する姿！夢、希望、目標を見失わない強い精神や親子のあり方にスポットを当て、浜松市天竜に生まれ15歳まで過ごした宗一郎の少年時代の実話をもとに、創作したミュージカルです。

ミュージカル「本田宗一郎物語」は、何事にもあきらめないで挑戦する宗一郎の「やрмаいか！」の精神を、少年時代のエピソードから伝え、夢の実現に向けてエネルギーを与えてくれる作品でした。

### キャスト

大角真名人	袴田 郁哉	平賀 建渡	青柳 早織	渥美みのり
岡 みる	遠山 麻実	西田 愛	山田 桃花	酒井 藍
酒井 空	生田三紗季	藤澤 晴菜	河合 莉緒	近藤 まりも
伊藤 杏奈	大石 愛	大栗 拓斗	佐藤 来未	藤澤 紫野
馬 淵 芽依	光岡 香菜子	北内 花実	佐藤 希望	山田 愛
梅 林 佳美	大栗 万友子	岡 みのり	三室 輝佳	山田 大介
中田 和江	青柳 佳都代	村井 教子	寺田 亜矢子	今田 史隆
石野 良子	天野 豊久			

コンテンポラリーダンサー

### REVIEW

次世代を担う子供たちが「夢」、「希望」を抱き、また、「親子の絆」についても考えさせられるミュージカルでした。



現代の天竜っ子たちの夢は何？



F1のメカニックに憧れる子ども達



勉強嫌いの宗一郎は今日も授業を抜け出す



「ハンコ事件」をおこす、宗一郎、喜代次、幸次



観客と舞台をつなぐ物語りの語りべ



飛行機を見に行きたいと父にせがむ宗一郎

本田宗一郎生誕100年

平成18年11月12日（日）

開場／12時30分 開式／13時00分

会場／浜松市天竜壬生ホール

## 第1部 記念式典

- 1 開 式
- 2 ハッピーバースデーを合唱
- 3 本田宗一郎の一生を映像（ビデオ）で紹介
- 4 本田宗一郎への感謝のメッセージ  
（光明小学校 ドリーム委員会 児童）
- 5 実行委員長あいさつ
- 6 市長あいさつ
- 7 来賓祝辞

## 第2部 表彰式

- 1 本田宗一郎伝記読書感想文コンクール
- 2 本田宗一郎似顔絵・オートバイ絵コンテスト



本田宗一郎への感謝のメッセージ



ハッピーバースデーを合唱



本田さちさんほか 来賓の皆様



実行委員長あいさつ



本田宗一郎伝記読書感想文コンクール



本田さちさんにあいさつする皆様

## ためす人になろう

浜松市立光明小学校 三年二組  
片桐 瑚波

本田宗一郎さんは、私が通う光明小学校に「ためす人になろう」というスローガンを送ってくれた人です。本田宗一郎さんは光明小学校の大先輩です。そして、せかいの「ホンダ」を作り上げた人です。学校にある「本田さん資料室」でオートバイや写真を見て、私は本田さんのことをもっと知りたくなりました。そこで、この「空とぶオートバイ」という本を読んでみようと思いました。

この本は、山間の小さな村に育った本田宗一郎さんが、やがて、世界のオートバイを作り上げるまでのお話です。

本田宗一郎さんは、子どものころ、いたずら好きなわんぱく少年だったようです。先生の授業のじゃまをしたり、校長室の金魚を「赤ぼっかりでつまらん」と言って、青、黄、むらさきのエナメルで色を塗ったりしてしまいました。今、こんないたずらをする人はいません。

でも、いたずらばかりしていたのではなくて、精米機や自動車のエンジンにあこがれて、光明村から車で一時間もかかる浜松まで自転車をこいで飛行機を見に行くほど好きなのが大好きな子どもでした。わたしは、いくら見たくても光明から浜松まで自転車で行くなくて、すごいと驚きました。行ったこともない知らないところへ一人で何時間もかけて行ってしまうなんて、私にはできそうもありません。

この本で一番心に残ったのは、ピストンリングを作った時のことです。ピストンリングは「鋳物」という物で作ります。鋳物は簡単なものではなくて、二・三年修行をしないと作れないんだそうです。本田宗一郎さんは、夜遅くまで研究をつづけました。何度も失敗を繰り返して目標に向かって頑張りました。そして、学問の大切さを知って、浜松高工に通うことになりました。勉強をして新しいことに挑戦していきました。そういう努力が実ってやっと、ピストンリングが出来上がりました。油だらけになってくじけずにやったから、成功したのです。

わたしは、この話を知って「ためす人」とは、本田宗一郎さんその人のことだと思いました。本田さんは、ためすことで自分の夢をかなえたのです。そして、私たちに「ためす人になろう」と伝えてくれました。

私は、本田さんの好きなことに夢中になっていく生き方を知って、願いをかなえるためには、何事にも負けずに頑張らなくてはいけないと感じました。あきらめなくて出来るようにするには、どうしたらいいか勉強して、そして、ためさなければいけないと思いました。「ためす人」になりたいと思います。

## 「私の手が語る」を読んで

浜松市立二俣小学校 六年三組  
竹井 夏流

ぼくは、オートバイに興味があります。そのオートバイを作り出した本田さんのことにも関心があってこの本を読むことにしました。

本田さんのやり方で一番感心したのは、未来を知りたいという意味です。やはり、経営者として大事なことは、過去にとらわれずに絶えず先を見て、新しい考え方や商品などを産み出していくことが大切なんだと思いました。

自分が「どういう大学を出た」とか「こんなことを勉強した」などにこだわっていると過去に押しつぶされて、そこから抜け出せなくなってしまうという考え方にも共感しました。いくら良いことを知っていたり、いろんなことを学んでいたとしても、それを未来や自分の成長のために使うことができないと、それは無意味な存在になってしまうと思ったからです。自分が好きなことや得意なことを頑張って勉強し、知らないことは、その道の専門家や学者に聞いて、みんなで協力してやっていくことも大事なことなんだとわかりました。そして、教わって知った、やって知ったという体験によって得た知識が、自分を未来へ進ませることに役立つということがわかり、これからは、僕も自分から進んで何事も実行して、多くのことに挑戦していきたいと思いました。

また、本田さんの自分に物事を教えてくれたり、アドバイスをくれたりする専門家や学者などの人たちに対して、応える気持ちを忘れないこと、教えてあげてよかったと思ってもらえることは、自分の知らないことを教えてくれている人たちへの思いやりだということに気がつかされました。やはり、みんなが協力し合ってやっていくためには、周りの人への思いやりが一番大切になってくると思いました。そうやって、やさしさや思いやりの精神で人とかわりあって生きてきた本田さんだからこそ、「世界のホンダ」を築き上げることができたんだと思うし、ここまで発展させることができたのも、本田さんの絶えず先を見つめ、未来を知るといった姿勢があったからこそだと思いました。



「試す人になれ」  
母校光明小学校の創立 100 周年に  
生徒にメッセージを送る。

## 夢を追いかける

浜松市立清竜中学校 三年一組  
村井 萌乃

「物まねは嫌い。ユーモアと純情」私はこの本田宗一郎の言葉に目を引かれました。何物にもとらわれず、自分の描いた夢に向かいどんどん挑戦していく姿。堅苦しいだけの生活ではなく、人生を明るく楽しく保っていく姿。熱心に物作りをする姿。そんな本田宗一郎が頭に浮かんでくるようです。

いつ頃だったか、母に連れられ、本田宗一郎展を観に行った時、ふと一つの大きなパネルが私の目に飛び込んできました。そこには彼の手が描かれていました。その手には何十個もの傷があり、カッターやハンマーでできた傷、キリやバイトが突き抜けた跡。「満足なのは小指だけ、別に深い意味はない。」と、彼の言葉にもあるように、本当に傷跡だらけでした。私は思わず息を飲みました。世界の本田と言われる人が、これ程までに傷だらけになり追い求めた夢。その傷から、彼の苦労と仕事にかけける情熱に胸をうたれました。

本田宗一郎は明治三十九年、旧天竜市に生まれました。彼の父は鍛冶屋で宗一郎は幼い頃から物作りに親しんで生活してきました。彼が世界の本田といわれるまでに成長した原点はここにあるんだと、私は思います。彼の物作りへの熱心さはとても強く、家から遠く離れた場所にあるにもかかわらず、機械や車を見に行ったり、なんと二十キロも離れた所に自転車で行き機を見に行くなどもしていました。よほど好きでなければ普通はそうできることではありません。そんな物事に夢中になれる彼の姿はとても輝いていたと私は思います。自分を振り返ると、私にもこんなに夢中になれた事が、はたしてあったのでしょうか。一時期、のめりこみ熱中したものはあっても、彼のように人生の全てをかけるほど夢中になったものは、きっとないと思います。あらためて本田宗一郎の偉大さを感じました。

本田宗一郎は職人の腕はもちろんのこと人間的にもとてもすばらしい人です。そんな彼は、いくつかの言葉を残しています。「人間関係こそ一番大切、覚えるのはコンピュータで良い。」私はこの事は今の時代に大切なことだと思いました。記憶の優秀さも大切ですが、良好な人間関係が築けていれば、どんな情報や知識でも入ってきます。それだけで自分の知識が広がり成長できるということです。無理に全てを吸収しなくても、人間関係の中で少しずつ自分のためになることを知っていけばよいのだと思いました。そしてまた、人と接して初めて学ぶこともあります。そういった出会いを大切にしなければいけないと思います。「悪い子に期待する」これも本田宗一郎の言葉です。彼は個性というものをとても大事にしています。なんでも親や周りの言いなりになる子や、大人の考え方の枠から飛躍しようとしないうい子より、自分の意志を表明し、主張したり、個性的な行動を示す悪い子に期待しているという。なぜならば、そういう子どもたちこそ個性の芽生えを持つ、頼もしい、可能性に満ちた本当の意味での良い子だからで

す。型にはまって、何でも素直に受け入れてしまっていれば、そこから抜け出せず成長することができないし、得る物も少ないと思います。だから悪い子といわれるのを恐れず様々なことに挑戦して、多くの体験を通して成長していくのが大切なんだと思います。本田宗一郎は個性の大切さを小学生のときから感じていました。個性があるからこそ、新しいものを作り出すことができ、今の発展したホンダの会社があるんだと思います。

本田宗一郎はつねに夢を持ち、そのために努力をしてきました。彼の手がそれを物語っています。技術においても経営においても、創造力こそ力の源泉であり、創造力は見果てぬ夢から生まれる。夢を捨て、失敗を恐れるときに人間の創造力はしぼむ。本田宗一郎の生涯をたどり、あらためてそのことを痛感します。

最後に偉業を成し遂げた彼が、この天竜の地の出身者であるということを私達は誇りに思い、彼の夢を追いかける熱く強い精神力を見習い、今、自分の目の前にある事をしっかりと見つめ、私は私自身の夢の実現に向けて、決して途中であきらめることなく、一步一步着実に成長していきたいと思います。



オートバイ絵コンテスト 最優秀賞作品



似顔絵コンテスト 最優秀賞作品

平成18年11月12日 掲載

感想文コンクール			似顔絵 コンテスト	オートバイ絵 コンテスト
小学校低学年の部	小学校高学年の部	中学生の部		
＜最優秀賞＞				
片桐 瑚波 (光明小3年)	竹井 夏流 (二俣小6年)	村井 萌乃 (清竜中3年)	中村 美千代 (馬郡町・一般)	中村 勇太 (天竜中2年)
＜優 秀 賞＞				
井野口 由季 (光明小2年)	大石 浩平 (二俣小6年)	三室 輝佳 (光が丘中2年)	鳥山 裕斗 (光明小5年)	小川 大地 (光明小4年)
老川 恭平 (光明小2年)	近藤 さくら (光明小4年)	守田 千純 (清竜中3年)	空出 瑞穂 (光明小5年)	市川 和輝 (二俣小1年)
坪井 美夕 (光明小2年)	北内 一圭 (下阿多古小4年)	牧下 沙也加 (光が丘中1年)	浅野 文彦 (山東・一般)	松居 賢哉 (光明小4年)

## 第3部 記念公演

- 1 伝統・芸能とコンテンポラリーダンスの共演  
～天竜川の雄大きさを、手づくり打楽器とダンスが織りなす～
- 2 ミュージカル「SOICHIRO 物語」  
～本田宗一郎が、いま～生誕の地によみがえる～

### ◆伝統・芸能とコンテンポラリーダンスの共演

#### キャスト

中島知里	鈴木 彩	村松美緒	遠藤愛理	細井祐子
市川千遥	岡部奈津美	鈴木郁美	黒川沙織	金指里奈
花島栄莉菜	小木亜純	吉林摩耶	吉林晃穂	山下 海
内山 梓				

阿部 葵	伊藤 瞭	太田有美	寺本リサ	八木哲平
寺本リエ	太田峻輔	白井秀馬		

### ◆ミュージカル「SOICHIRO 物語」

#### キャスト

青柳早織	遠山麻実	西田 愛	山田桃花	梅林亮生
大角真名人	河合莉緒	近藤まりも	酒井 藍	酒井 空
生田三紗季	袴田郁哉	平賀建渡	藤澤晴菜	伊藤杏奈
大石 愛	太田沙絵美	大橋裕大	佐藤来未	花平 優
藤澤紫野	馬淵芽依	光岡香菜子	北内花実	佐藤希望
佐藤希望	三室輝佳	中田和江	今田史隆	竹山あかね
石野良子	天野豊久	山田大介	山田 愛	

コンテンポラリーダンサー

#### スタッフ

脚本・演出・演技・歌唱指導 芹沢 文子  
 ダンス指導 太田 良子 作・編曲 山本 裕治  
 舞台監督 酒匂 政博  
 企 画 天竜教育事務所 生涯学習課



ASIMOを囲んで



記念公演



ASIMOを囲んで



記念公演

本田宗一郎生誕100年

平成18年11月4日（土）～26日（日）

会場／浜松市天竜壬生ホール 展示ギャラリー

展示コーナー ～本田さん夢をありがとう～

F1 レーサー・マシン展示、GP・マシン展示、名車の展示、  
本田宗一郎「軌跡展」、本田宗一郎「空への夢」、似顔絵コンテスト展示、  
バイク絵コンテスト展示、マン島 TT レース関連



無線機用発電機改造 Bicycle Engine(1946年)



GP・マシン展示



本田宗一郎似顔絵・オートバイ絵展示



谷口尚己氏



カーチス号 走行披露

セレモニー

11月12日(日) 9時30分～ 会場／浜松市天竜壬生ホール 芝生広場

- 1 開会
- 2 来賓あいさつ
- 3 若杉太鼓（天竜林業高等学校・郷土芸能部）
- 4 マン島 TT レース出場ライダー走行披露（特別ゲスト 谷口 尚己氏）
- 5 エコラン出場カーチス号走行披露

記念講演

「おやじさん」を語る 11月18日（土）  
～二輪レースの仲間達とおやじさん～

開場/13時00分 開演/13時30分 会場/浜松市天竜壬生ホール  
マン島 TT レース出場ライダー及び関係者による、トークショー



自慢のポンポン大集合in天竜



手づくり打楽器制作（天竜林業高等学校にて）



自慢の  
ポンポン大集合  
in 天竜

子ども  
ものづくり  
体験教室

平成18年11月11日（土）～19日（日）

会場／浜松市秋野不矩美術館 市民ギャラリー

本田宗一郎の遺品展示 ～人間宗一郎を語る～

本田家から旧天竜市に寄贈された、本田宗一郎及び父親である本田儀平の約1,000点にのぼる遺品の中から、本田宗一郎がものづくりに掛けた不撓不屈の精神となったルーツ、世界の自動車産業に残した偉業、人間性等を偲べる遺品を展示し、本田宗一郎氏の偉業を改めて顕彰し後世に伝えるものです。

本田宗一郎のルーツ

＜儀平＞

道具類：大工道具、白と杵、糸くり機など  
趣味の品：碁盤、火縄銃 など



本田宗一郎の偉業

表彰類：賞状、トロフィー、盾、メダルなど  
写真、肖像画：天皇皇后と、さちさんと、アート商会時代、似顔絵、肖像画など

本田宗一郎の趣味

＜宗一郎＞

趣味の世界：直筆彩色画、水墨画、絵の具、ゴルフクラブ、カメラなど  
生活関連の品：靴、椅子、ネクタイ、帽子、衣類など  
趣味の収集品：鎧兜、飛行機の模型、花絵皿、船の置物、お面、F1 模型など  
その他：本人の手形、将棋免状、本田氏撮影写真作品など



勲一等旭日大綬章などの勲章



なつかしい思い出の写真



引退後始めた趣味の日本画



表彰や感謝の記念品



ボーイスカウト・ゴルフウェアなどの遺品

コンテンポラリーダンス



水の旅



水しぶき



龍水の都



ミュージカル「SOICHIRO物語」



「やらまいか」を歌う出演者



ユーモラスな歌は、お手のもの



父の仕事を手伝う宗一郎



先生はいつの時代も、厳しく、優しく



自転車の修理を学ぶ宗一郎



わんぱくトリオは、悪知恵の宝庫



嵐の中、自転車で突き進む宗一郎



夢はメカニック！キマッタネ！

本田宗一郎生誕100年

未来のパートナー「ASIMO」に会おう

11月12日（日）会場:浜松市天竜壬生ホール 野外ステージ



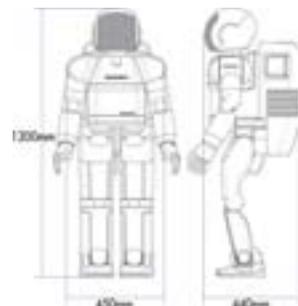
# ASIMO

## ASIMOのネーミング

**A**dvanced ……新しい時代  
**S**tep in ……ステップ  
**I**nnovative ……革新  
**M**obility ……モビリティ

「ASIMO」とは、Advanced Step in Innovative Mobility。  
 これは、新しい時代へ進化した革新的モビリティを意味します。

ASIMOは、近い将来、実際に人間の生活空間で活動することを想定して研究・開発を行いました。  
 人間の生活空間での自由自在な移動、作業しやすいサイズや重量、簡単な操作性を実現しました。また、より身近に感じていただけるデザインとしました。



## ASIMOの特徴

- 小型・軽量化
- より進化した歩行技術
- 動作範囲を広げた腕
- 簡単な操縦性
- 親しみやすいデザイン



ASIMO 子供とフラダンス



ASIMO お客様にあいさつ



history

3



1985年 昭和天皇陛下を熊本製作所にお迎えて



1988年 米国自動車殿堂入り



やらまいか歌唱練習



ダンスレッスン(手が上がるか心配)



歌のレッスン

# ミュージカル・コンテンポラリーダンス 練習風景



コンテンポラリーダンスレッスン



1990年 FIA表彰式に セナと



## ミュージカル「本田宗一郎物語」が できるまでのエピソード

今回、ミュージカル「本田宗一郎物語」の台本制作にあたり正直、「とんでもないものを引き受けてしまった」という思いでした。

ミュージカルの作品の多くはファンタジーであり実在の人物を描いたものはあまり例はないということ、「宗一郎」は郷土の偉人であり顕彰会の皆様をはじめファンが多く、そんな皆様に満足していただけるものが、はたして書けるだろうかということ、「世界のホンダ」の礎を築いた「宗一郎」をミュージカルにしてしまってよいものだろうかということ、等々不安だらけのスタートでした。

しかし、「宗一郎」について書かれた数多くの本や、ご本人の著書などを読み、人間「宗一郎」を探っているうちにその魅力溢れる人間性や、ものづくりへのこだわりやエネルギーを一人の大人として子どもたちに伝えなければいけないという使命感にも似た衝動がおこってきました。

ミュージカルでは歌や踊りの技術はもちろん必要です。でも稽古の中ではどれだけ真剣に取り組むかということの方がもっと大切です。出演者は1つの作品を創り上げていく1つのチームです。一人一人が高い意識を持って稽古に参加しなければ良いチームにはなれません。出番の多い少ないは

関係ありません。そこをわかってもらう事が稽古の柱となります。そしてセリフの1つ1つ、歌詞の1つ1つ、音楽の1フレーズ1フレーズを感じ演じ歌う事で「宗一郎」を表現し、初めて1つの作品になり、観ている方に伝わるということ。

天竜っ子たちは素直で感受性も豊かであり、芝居の経験のほとんどない子たちが稽古が進む中で成長していく姿は、私の喜びでした。

また、稽古を続けていくうちに、受け身で取り組むだけでなく、積極的に発言し自分たちの作品を創っていくんだという意識が芽生えてきました。「ここはこうの方がおもしろい」など子どもたちの中から生まれたアイデアは大切にして、演出に活かしていきました。こうして徐々に「チーム宗一郎」は走り出しました。

紙の上にかかれた文字に素敵な音楽がついて、演じ・歌い・踊りながら立体的に立ち上がっていく瞬間は本当にワクワクします。

「宗一郎」と「ミュージカル」という遠く離れたもののように感じられたものが、出演者やスタッフによって1つになった時、ミュージカル「本田宗一郎」が誕生しました。

芹沢 文子

## 宗一郎物語別府公演記念 CD

01 オーバーチュア～宗一郎ソロ A	3:33
02 メカニックの歌	2:14
03 宗一郎ソロ B	2:05
04 いとしい幸せ	2:42
05 ナレーション 1	1:20
06 俺の好きなもの	1:44
07 俺の好きなもの (別府スペシャル)	0:22
08 ハンコ事件の歌	3:32
09 よくみてみよう	2:22
10 飛行機みたいな	2:34
11 闇を行け	4:08
12 見たぞ飛行機	1:43
13 ナレーション 2	1:13
14 父と母の歌	2:46
15 ナレーション 3	1:32
16 自動車登場～宗一郎の決意	3:46
17 ナレーション 4	1:11
18 親父の歌	1:44
19 やらまいか	3:42
20 チェイサー	3:07

作詞 芹沢 文子 作・編曲 山本 裕治

Special Thanks 関 彰子 (歌唱指導)  
松井 みか (ピアノ)

## 01 宗一郎ソロ A

ここに一つの夢がある 輝くひとみがある  
どうかどうか持ち続けてほしい  
夢の扉たたくまで  
明日のことを語れぬ奴に希望はわいてこない  
いつもいつも忘れないでほしい  
確かに夢があったことを



## 02 メカニックの歌

耳をつんざくエンジン音 鼓動が高鳴る  
嵐のような歓声を受けて 僕らのマシン火をふく  
アクセル全開ドライバー マシンを操る  
タイヤをさしませスパードライブ  
でもピットの中では僕らがヒーロー

メカニック なんてかっこいい響き  
メカニック そうさ僕らの夢のせて

チェッカーフラッグ受けて輝くマシン  
歓喜の輪の中ウィニングラン  
どうだやっただ僕らのマシン

<間奏>

チェッカーフラッグ受けて輝くマシン  
歓喜の輪の中ウィニングラン  
どうだやっただ僕らのマシン  
やっばり最高僕らのマシン

## 03 宗一郎ソロ B

ここに一つの夢がある 輝くひとみがある  
いつもいつも忘れないでほしい  
確かに夢があったことを

君たちはもう知っているだろう  
何かを作る喜びを  
君たちはもう知っているだろう  
夢中になれる素晴らしさを

きっと明日は君たちを待ってる  
きっと未来は君たちの中  
きっと明日は君たちを待ってる  
きっと未来は君たちの中

## 04 いとしい幸せ

緑の森奥深く 小さき子ら歌ってる  
ここにいるよと歌ってる  
澄んだひとみを持つという 小さき子らの歌声は  
今日も地上に舞い降りる

小さな星のまたたきに見守られ  
やわらかな風にそっとふれ  
ゆるやかな時の流れは  
小さき子らの 心はぐくむ

今は何もわからなくても  
いつかきっとわかるだろう  
今は何もわからなくても  
ただ受け止めるだけでいい  
いとしい幸せを

# 06

## 俺の好きなもの

俺の好きなもの 俺の好きなもの

「そりゃ川さ」

飛び込む もぐる 魚釣る

飛び込む もぐる 魚釣る

俺の好きなもの 俺の好きなもの

「山も大好きだぜ」

虫とり 探検 山すべり

虫とり 探検 山すべり

学校抜け出しエッサッサ

授業サボって最高さ

「でもな、俺、逃げてただけだよな。

山も川も大好きだけど、これでいいのかなあ。」

俺の好きな川 俺の好きな山

俺の好きなもの 俺の好きなもの

俺の好きな 天竜

みんな好きな 天竜

# 08

## ハンコ事件の歌

やった明日から夏休み

山行く川行くどこへ行く

夏の祭りでワッショイ!ワッショイ!

花火も太鼓もドンドンドン

遊びまくって日が暮れて

朝が来たってまた休み

喜代次 「つとその前に」

甲乙丙丁 甲乙丙丁 甲乙丙丁 甲乙丙丁

どうするどうする通信簿「丙!」

ゆううつゆううつ通信簿「丙!」

母ちゃんにみせたら夕飯抜きだ

父ちゃんにみせたらゲンコツ飛ぶぞ

でもみせなきゃハンコがハンコがもらえない

みせなきゃ休みが休みが始まらない

宗一郎 「そうだ、俺にいい考えがある」

幸 次 「いい考えって?」

喜代次 「何だよ宗ちゃん?」

作りゃいいのさハンコを

作りゃいいのさハンコをな

幸 次 「作るってどうやって?」

俺んち自転車屋 使える物があるだろう

君んち自転車屋 使える物があるでしょう

要らないチューブをちょっと拝借

小さくハサミで切り取って

ここから腕のみせどころ

名前を彫るのさ 彫刻刀で

ゆっくり ゆっくり ゆっくり ゆっくり

ゆっくり ゆっくり ゆっくり ゆっくり

しっかり しっかり しっかり しっかり

しっかり しっかり しっかり しっかり

宗一郎 「ハイできあがり!」

喜代次 「すごいや宗ちゃん」

幸 次 「これで明日から思う存分遊べるぞ」

やった明日から夏休み

山行く川行くどこへ行く

夏の祭りでワッショイ!ワッショイ!

花火も太鼓もドンドンドン

遊びまくって日が暮れて

朝が来たってまた休み

やった明日から夏休み

夏の子どもがあふれだす

夏の子どもがあふれだす

# 09

## よくみてみよう

鳥はどうして飛べるのか

自転車どうして動くのか

知ってるようで知らないこと

僕らのまわり あふれてる

どうしてなんだ なぜだろう

よくみてみよう 考えなくちゃ

空がどうして青いのか

雨はどこから降ってくる

知ってるようで知らないこと

見ているだけじゃ わからない

どうしてなんだ なぜだろう

よくみてみよう 考えなくちゃ

僕の心はいつも求めている

僕のひとみはいつも探してる

興味津々よく見てふれて

音がするかも においはどうだ

よくみてみよう よくみてみよう

考えなくちゃ かんがえなくちゃ

そうさ僕らはいつだって

自由な自由な探求者

そうさ僕らはいつだって

自由な自由な探求者



# 10

## 飛行機見たいな

おーい宗ちゃん知ってるかい

おーい宗ちゃん知ってるかい

すっげえーんだぜ

とにかくすっげえーんだぜ

驚くなよ 驚けよ

驚くなよ 驚けよ

宗一郎 「どっちだよー」

腰抜かすな 腰抜かすぞ

腰抜かすな 腰抜かすぞ

宗一郎 「だからどっちだよー」

喜代次 「アメリカから飛行機が浜松に来て、

幸 次 「宙返りやらなんやら曲乗りのショーって

やつをやるらしいぜ」

宗一郎 「ホントか? 飛行機が来るのか?」

見たいな 見たいな 空飛ぶ飛行機

行きたいな 行きたいな 飛行機ショー

見たいな 見たいな 空飛ぶ飛行機

行きたいな 行きたいな 飛行機ショー

飛行機が見たい

# 11

## 闇を行け

行かなくちゃ行かなくちゃ  
この闇の先に

「闇は深いぞ気をつけろ」  
「風は強いぞ気を抜くな」

風を切れ 風を切れ  
この思い乗せて

この気持ち 「つきあげろ熱い思い」  
抑えきれない「走り始めた」  
長い道 「長い道」

<間奏>

見てみたい 見てみたい  
この自分の目で

「目に映るもの それ何だ」  
「手に触れるもの それ何だ」

触りたい 触りたい  
この自分の手で

明日はすぐそこ 「明日はすぐそこ」  
もう夜が明ける 「もう夜が明ける」  
明日はすぐそこ  
もう夜が明ける 「もう夜が明ける」  
もう夜が明ける 「明日はすぐそこ」  
明日はすぐそこ  
明日はすぐそこ  
明日はすぐそこ



# 14

## 父と母の歌

少し危なっかしくても  
ちょっといきすぎていても  
きっと前を向いて歩いているから  
信じてあげよう自分の子

握りこぶしが震える  
叱りたい気持ちを抑えて  
彼と向き合って話を聞こう  
信じてあげよう自分の子

知らないこと知るよこび  
憧れを目の前に  
幾千の言葉並べるより  
幾枚の写真飾るより  
きっと心育つはず

今日あの子が見つけた何か  
小さな小さな芽を出す日まで  
見守ってあげる  
見守り続ける  
自分の子だから  
自分の子だから  
自分の子だから  
自分の子宝

# 16

## 自動車登場～宗一郎の決意

おーい大変だ 自動車 comes ゴ  
自動車 自動車 自動車 自動車  
自動車がくるぞ

おーい宗ちゃん 自動車 comes ゴ  
自動車 自動車 自動車 自動車  
本物が来るぞ

どこだ どこだ どこだ 自動車は  
まだか まだか まだか 自動車は  
どこだ どこだ どこだ 自動車は  
来るぞ 来るぞ 来るぞ 自動車が

どけ どけ どけ どけ とつとどけ  
どけ どけ どけ どけ とつとどけ  
自動車様のお通りだ 自動車様のお通りだ

どけ どけ どけ どけ とつとどけ  
どけ どけ どけ どけ とつとどけ  
そうさ俺が自動車様だ

真っ黒ボディに ぴかぴかタイヤ  
四角い顔のボンネットには まあるいライトがキラッ  
エンジンうならせ ほこりをまき上げ  
デコボコ道でもなんのその  
そうさ俺が自動車様だ そうさ俺が自動車様だ

おーい道あけろ おーい道あけろ  
おーい道あけろ 小僧道あけろ

出逢ってしまった この衝撃  
こみ上げてくる この喜び  
体がしびれ洪水の中 放り出された気分

「これが自動車か！」

これが自動車 これが自動車 これが自動車  
これが自動車 これが自動車 これが自動車  
心の震がはれる 体の中から湧き上がる

そうだ そうだ これなんだ  
やっつ やっつ やっつ 見つけた  
そうだ そうだ これなんだ  
これだ これだ 自動車が



# 17

## 親父の歌

仕事する親父の背中が教えてくれた  
挑戦する前に決してあきらめるな  
仕事する親父のこぶしが教えてくれた  
本物を作るため時間を惜しむな

たとえ多くを語らなくても  
その背中がそのこぶしが俺を励ます  
たとえ遠くに離れていても  
心に焼きつく親父の姿

ありがとう今日まで ありがとう親父  
ありがとう今日まで  
俺の 俺の 俺の誇りさ

### やらまいか

作詞 芹沢文子  
作曲 山本裕治

with All Heart & Soul ♩ = 138

**Intro.** Em D/F# G6 E7/G# Am7 A7 D7

**A** G Em7 C D7 G

ゆめがあるなら やらまいか ゆめがあるなら やらまいか

**B** C G

どでかいゆめほど ちからが ぶく

Em7 A7 D7 D#dim7

せっかくみつけた じぶんの - ゆめ -

**C** Em7 A7 Em7 A7

ぼやぼやしてたら めのまえを あっというまに とおりすぎる

C A7 D7

しっかりうでだし ビシッと一つかむ - さあ やらまい



**D** G C/G G C/G  
か さあ やらまいか

**A** G Em7 C D7 G  
ゆめがあるなら やらまいか ゆめがあるなら やらまいか

**B** C G  
くろうがあるほど ちからが 弱く

Em7 A7 D7 D<sup>dim</sup>7  
くなん こんなん まけてたーまるかー

**C** Em7 A7 Em7 A7  
ちょっとやそっとじゃ へこたれない くよくよしてたら もったない

C A7 D7  
せっかくつかんだ ゆめがにーげてくー さあ やらまい

**D** G C/G G B<sup>9</sup>  
か さあ やらまいか

**E** Em7 Dm7 G7  
きみたちは もう しつ ているだろうー なに



Cm7 Cm7/F Bb A#Bb Bb7  
 かを つくる - よろこびを -  
 E#M7 Dm7 G7  
 きみたちは もう しっ ているだろう - む5♯  
 Cm7 C#dim7 D7 B7  
 う になれる - すばらしさを -  
 [F] Em7 A7 Em7 A7  
 しっばいなん てこ - わくない むかしからのガ キだいしょう

Am7 D7 B7  
 やん ちやむちやくちや へっちやらさ - -  
 Em7 A7 Em7 A7  
 いしばしなん てた - たかない むかしからのガ キだいしょう  
 Am7 D7 Am7 D7  
 りょうてをあげて わたて - やるさ - - きっ  
 [G] Gm GmM7/F# Gm7/F C/E  
 と あすは きみたちをまっ てる きっ



E♭ Cm7 F7 B♭ D7  
 と みらいは きみたちのなか きつ  
 Gm Gm7/F# Gm7/F C/E  
 と あすは きみたちをまつてる きつ  
 E♭ Dm7 Cm7 F7  
 と みらいは *rit.* きみたちのな  
 G  
 か *accel.* さあ やらまい

G C/G G C/G  
 か さあ やらまいか さあ やらまい  
 G C/G G  
 か さあ やらまいか -  
 - *Fine*



# やらまいか

<ミュージカル「本田宗一郎物語」テーマ曲>

作詞：芹沢 文子 作曲：山本 裕治

♪夢があるならやらまいか 夢があるならやらまいか  
どでかい夢ほど 力が沸く せっかく見つけた自分の夢  
ぼやぼやしてたら目の前を あっというまに通り過ぎる  
しっかり腕出しビシッとつかむ さあやらまいか さあやらまいか

♪夢があるならやらまいか 夢があるならやらまいか  
苦労があるほど 力が沸く 苦難、困難負けてたまるか  
ちよつとやそつとじゃへこたれない くよくよしてたらもつたない  
せっかくつかんだ夢が逃げてく さあやらまいか さあやらまいか

♪君たちはもう知っているだろう 何かを創る喜びを  
君たちはもう知っているだろう 夢中になれる素晴らしさを

♪失敗なんて怖くない 昔っからのガキ大将  
やんちゃむちゃくちや へっちゃらさ  
石橋なんて叩かない 昔っからのガキ大将  
両手を上げて渡ってやるさ

♪きっと明日は 君たちを待っている きっと未来は 君たちの中  
きっと明日は 君たちを待っている きっと未来は 君たちの中

♪さあやらまいか さあやらまいか さあやらまいか さあやらまいか



## 編集後記

「本田宗一郎生誕記念埼玉公演 Dreams Forever」の発刊に際しまして、本田さち様のご厚意に感謝するとともに、多くの方々に寄稿していただき誠にありがとうございました。

この「本田宗一郎生誕埼玉公演 Dreams Forever」は、子どもたちにいつまでも夢をもち続けて欲しいとの願いから作成し、困難に遭遇した時もこの冊子から一連の貴重な体験・舞台での感動・励まし合ったことなどを思い起こし、これからの人生に活かしてもらいたいとの思いを込めました。

この冊子は、平成 18 年 11 月に開催した、「本田宗一郎生誕 100 年記念事業（記念式典、遺品展、記念公演、ASIMO ショー）」、「本田宗一郎生誕 100 年記念別府公演」及び「本田宗一郎生誕記念埼玉公演」を本田宗一郎生誕記念の一連の思い出として載せました。

また、本田宗一郎ゆかりの地、本田宗一郎年譜の他、ミュージカル「本田宗一郎物語」の楽曲を掲載するとともに、その楽曲音源 (CD) や記念写真データ (DVD) も添付しました。

ミュージカル「本田宗一郎物語」は、子どもたちがミュージカルを通して、地域社会に目を向けるきっかけを作るとともに、偉人の生き方を学ぶ中から豊かな人間性を培って欲しい、そんな思いから平成 16 年度に計画したものです。

公演は、平成 17 年 11 月にプレ公演を、平成 18 年 11 月の「本田宗一郎生誕 100 年記念事業」では、本公演を開催することができました。その後、本田さちさんのご厚意により、平成 19 年 7 月に大分県の B-CON PLAZA において「本田宗

一郎生誕 100 年記念別府公演」、平成 20 年 9 月に埼玉県川越市市民会館において「本田宗一郎生誕記念埼玉公演」を開催することができました。

参加した子どもたちは、学校・学年の枠を超えて、時にはぶつかり合い、時には励まし合いながら、色々な人との関わりの中で切磋琢磨しながら、ひとつの舞台を創り上げました。

これから更に、多様化・複雑化するであろう社会環境の中で、子どもたちがとすれば自分の進むべき道を見失うような困難に出会った時、本田宗一郎氏の「CHALLENGING SPIRIT」を思い起こすこととともに、一連の貴重な体験・感動をこれからの人生に活かしてもらいたいと心より願っています。

最後に、公演でご尽力をいただきました学校法人ホンダ学園、本田宗一郎顕彰会、脚本・演出・演技歌唱指導の芹沢文子先生、作・編曲の山本裕治先生、ダンス指導の太田良子先生、歌唱指導の関彰子先生、演奏家の松井みか先生、舞台監督の酒匂正博様、保護者の皆様並びに運営スタッフなど多くの方に深く感謝を申し上げます。

「龍水の都」文化体験プログラム

実行委員会事務局 笹竹 和行



本田宗一郎 生誕記念 —DREAMS FOREVER—

---

発行日 平成20年12月20日  
編集発行 「龍水の都」文化体験プログラム実行委員会事務局  
編集委員 笹竹 和行 糟谷 伸子 尾畑 佳志  
印刷 杉森印刷株式会社